

■第38章

1) アヴェイラブル・ノート・スケール(available note scale)

1-1)長調のアヴェイラブル・ノート・スケール

1-2)長調のアヴェイラブル・ノート・スケール

1) アヴェイラブル・ノート・スケール(available note scale)

あるコードのコード・トーンとテンション・ノートを1オクターブ内に並べ変えてスケールとしたものを「アヴェイラブル・ノート・スケール」(available note scale)と呼びます。

アヴェイラブル・ノート・スケールは、あるコードに対して最も適したスケールと考えられ、フレーズを組み立てる時の基本となります。

アヴェイラブル・ノート・スケールには「長調または短調のダイアトニック・コード」や「ドミナント・コード」に由来したスケール、さらに「人工的に作られたスケール」などがあります。それらのほとんどは「モード」の名前を借用していますが、モードの解釈とは異なります。

1-1)長調のダイアトニック・コードとアヴェイラブル・ノート・スケール

調が「Cメジャー」の時、「CM7」(IM7)のテンションは「D音・F音・A音」(9th・11th・13th)です。これらのコード・トーンとテンション・ノートを1オクターブ内に並べ替えたスケールを「アヴェイラブル・ノート・スケール」(available note scale)と言います。このスケールは「モード」(旋法)の名前を借用し「Cイオニアン・スケール」と呼びます。

example 38-1

The image shows a musical staff in treble clef. On the left, a C9 chord is represented by a vertical stack of notes: C, E, G, Bb, D, F, A. Below it is the label ': CM9.13'. To the right, the available note scale is shown as a sequence of notes on a staff: C, E, G, Bb, D, F, A. Below these notes are the numbers 1, 9, 3, 11, 5, 13, 7, which correspond to the scale degrees. The notes are connected by a horizontal line, and the numbers are also connected by a horizontal line.

このようにして作られた「Cイオニアン・スケール」は、「C」や「CM7」のコードに適したスケールと考えられますが、その構成音にはテンションとしては使う事ができなかった「n11th」(F)の「アポイド・ノート」が含まれています。

アポイド・ノートは、コード・サウンドの様に音を長く持続させて使う事ができませんが、フレーズを作る時には、アポイド・ノートを避けるか、一拍よりも短い音価で、コード・トーンへ進行する「アプローチ・ノート」として使う事ができます。